

目 次

◇大和市街づくり賞	2
◇第 1 回（平成 5 年度）	2
◇第 2 回（平成 6 年度）	3
◇第 3 回（平成 7 年度）	4
◇第 4 回（平成 8 年度）	5
◇第 5 回（平成 9 年度）	6
◇第 6 回（平成10年度）	7
◇第 7 回（平成11年度）	8
◇第 8 回（平成12年度）	9
◇第 9 回（平成13年度）	10
◇第10回（平成14年度）	11
◇第11回（平成16年度）	12
◇第12回（平成17年度）	13
◇第13回（平成18年度）	14
◇第14回（平成19年度）	15
◇第15回（平成21年度）時限的部門「屋外広告物部門」	16
◇第16回（平成23年度）テーマ「省エネ・安全性」	17
◇第17回（平成24年度）テーマ「歩くのが楽しくなる街並み」	18
◇第18回（平成25年度）テーマ「人のつながりが見える風景」	19
◇第19回（平成27年度）【日本建築学会関東支部提案競技との合同開催】	20
◇第20回（平成29年度）	24
◇第21回（令和 4年度）時限的部門「わたしの居場所」	25
◇第22回（令和 6年度）時限的部門「歩くのが楽しいマチミチ」	25
◆資料編	27

大和市街づくり賞

(大和市みんなの街づくり条例 第26条)

大和市街づくり賞とは、快適な街づくりを推進し、大和らしいまちを創造することを目的に、良好な街並みの創造に寄与している建築物やオープンスペースなどの空間、ちょっとした工夫によりまちに彩りを与えている事例、地域の街づくりに貢献した個人や団体を表彰する制度です。市民の皆さまからの自薦・他薦によりご応募いただき、「街づくり推進会議」の選定に基づき、市長が決定します。

受賞事例（第1回～第4回）

○街づくり賞の草創期で、活動部門と事例部門の2部門から構成されていました。

受賞事例（第5回～第11回）

○活動部門と事例部門の2つから構成されることに変わりありませんが、事例部門に「まちのアクセサリ賞」が創設されました。おしゃれな店先、きれいな生け垣、洒落たデザインのポストなど、まちなかでキラリと輝く身近な小事例を表彰します。これにより、事例部門は「まちのグッドデザイン賞」「まちのアクセサリ賞」の2つから構成されていました。

受賞事例（第12回～第14回）

○第11回までの事例部門が「まちのグッドデザイン賞」「まちのアクセサリ賞」に分かれていたものが「事例部門」に一本化されました。同じく活動部門においても「個人表彰」「団体表彰」が「活動部門」に一本化されました。

受賞事例（第15回～第19回）

○「事例部門」、「活動部門」等の区分は変わりませんが、募集の際にテーマを設定し、テーマに沿った内容で受賞事例の選定を行うようになりました。

第1回（平成5年度）

【活動部門】

■大和駅東側再開発等促進協議会

大和駅東側の再開発を鉄道工事と合わせて進めるために結成され、毎月熱心に会合を重ねたり、広報を配布したりと積極的な活動をおこなっている。平成4年3月には、大和駅東側地区におけるまちづくりの任意ルール「大和駅東側地区まちづくり協定」を締結し、その後発足したまちづくり管理委員会によって、協定遵守のPR活動を行った。

■大和政経懇談会

大和歩行者専用道路沿道（国道246号線～東名高速道路南側、深見台3丁目周辺）の樹木への名札付けを行った。市内の遊歩道は、市民憩いのプロムナードとして親しまれるばかりでなく、小中学生、高校生の通学路でもあり、樹木へ銘付けは、詩情豊かに関心を高めつつ、市民と学生の植物関係学習に役立ち、ひいては郷土植物の生態系保全に資するものとなっている。

第2回（平成6年度）

【活動部門】

■女性によるまちづくり研究会

女性たちの熱心な研究活動（例えば、都市計画に関する「みどり」「歩道」「ゴミ」「放置自転車」「まちづくり条例」の提言等）は、専門家の眼からも関心させられる。市民感覚で捉えた様々な提言は、明快でわかりやすく市民のまちづくりの参考になるばかりか、行政への啓発的役割も果たしている。

■手柴 正

中央林間地域では、地域のまちづくりに関する市民活動組織として「中央林間まちづくり委員会」（平成元年設立）を組織し、地域のまちづくりに関する情報誌の発行、研究、アンケート調査、イベント等積極的な活動が展開されている。手柴氏は、会の設立当時から5年間に渡り、会長として委員会の運営に力を注がれ、他の地域にも模範的なまちづくり委員会として定着・発展するに至っている。地域を愛し、情熱をもって、まちづくり活動に取り組まれた姿は、まさに”まちづくり功労者”としてふさわしい。

【事例部門】



■「JACK & BETTY」（中央林間）

従来の駅前のパチンコ店という、決して品のよい施設として評価されるものではなかったが、当パチンコ店は、中央林間という市を代表する良好な住宅地の玄関口の品位を落とさず、むしろ街並みと調和した落ちつきのあるデザインとなっている。さらに、地域住民の要望を計画に反映するなど、まちづくりに敬遠されがちなパチンコ屋が、まちづくりに礼儀をもって接してくれた好例となっている。



■「フラワーロード」（渋谷）

交通量の多い国道467号線沿いの歩道を、神奈川県がフラワーロードとして整備し、うるおいある空間を提供している。周囲の比較的殺伐とした景観の中で、彩り鮮やかで管理の行き届いた草花が、レンガ色の舗装と調和して美しい道の景観を形成している。また、草花の管理が地元自治会（善光明自治会）の会員のみなさんで行われている。道路の整備やこまめな草花の維持管理が沿道施設の景観づくりへの契機となって、周辺全体が魅力的な景観と変容していくことに期待されるところとなっている。



■「ルグランつきみ野・つきみ野ガーデンア」（つきみ野）

周辺の閑静な住宅街に溶け込むような集合住宅であり、落ちつきのある色彩や隅々まで行き届いた細やかなデザインは、地域の景観イメージを良い方向に高めている。駐車場の低層化の工夫や中庭のデザインなど総じて評価すべき点は多く、地域の景観をリードしている。



■「大和市環境管理センター」（草柳）

都市内で立地が敬遠されがちな清掃工場であるが、そのイメージを見事に払拭した施設となっている。敷地西側の外構においては、木道や木橋など引地川との一体感に配慮し、敷地東側では、煙突を時計塔にしたり、まるでガラス面のようなブルーの外壁とし、公園との調和を図るなど、周辺景観に十分配慮された計画となっている。また、余熱を浴場施設やプールに利用し地域に開放するなど、新しいまちの拠点としての役割を果たしている。

第3回（平成7年度）

【活動部門】

■光丘自治会・なかよし公園（山王塚公園）を育てる会

市が整備を予定している地域の公園の計画づくりに積極的に参加し、地域にふさわしい公園をつくりあげた。当初は、市の呼びかけから始まったワークショップも、回を重ねるごとに自主的な参加となり、緑を多く残す提案を初め、子供たちに人気の高いバスケットゴールの設置やあえてゴミ箱を置かないなどの具体的な提案へとつながった。提案だけでなく、公園完成後の維持管理への参加も予定されるなど、今後の公共施設整備における計画段階から管理に至るまでの市民参加の先駆的な例となっている。

【事例部門】



■「ギャラリーモミヤマ」（大和南）

駅近くの密集した商店街にあって、緑豊かなやすらぎの小空間を提供している。高密度になりがちな駅前や商店街で、道路際をショーウィンドーで飾るのではなく、建物を大きく後方に引いて前面を緑で修景し、ホットする空間を生み出している。



■「神奈川県立大和西高等学校」（南林間）

正面玄関前の緑の残し方をはじめ、敷地全体にわたって緑を積極的に取り入れ、学校、PTA、生徒たちの協力のもとで管理が徹底して行われている。教育施設としては申し分ないほどの環境は、周囲にも緑の景観を提供している。建物を主張せず、校庭の周囲にも高木の間にも小路を通す古き良き大和の樹木を再生し、語り、散策したくなるような魅力的な緑空間も創出しており、周辺の林間都市のイメージと対応する景観となっている。



■「大和駅西側プロムナード」（中央）

広幅員の空間だけでも、いままでの大和の込み入った駅前のイメージを払拭するものであり、デザインも暖かみのある柔らかいイメージのもので、心優しい空間を創出している。買い物帰り等で、誰もが安心して憩える場として利用され始める等、大和の駅前にふさわしいシンボリックな空間となりつつある。視界をふさぐ排気塔の工夫や汚れが目立つ路面や水路の清掃といった課題もあるが、今後多くの市民に利用され愛されていくことが期待される。

第4回（平成8年度）

【活動部門】

■つきみ野6丁目7番地建築協定運営委員会

同協定地区内は、街区としてのまとまりが感じられ、緑豊かな住環境が守られている。同建築協定は、平成3年4月に締結されてから5年の有効期間が経過し、平成8年8月には更新が行われた。建築協定の更新について合意に至らないケースが数多いにも関わらず、協定を更新し、継続すること自体評価されて良いところであるが、当協定は、更新の際新たに「建物の外壁を北側の隣地境界線から1m以上とする。」という項目を付け加え内容の拡充を図っており、また、協定未合意の方にも情報を入れるなど努力をしてきた。

■中央林間北自治会環境部会

中央林間駅前のパチンコ店の建設がきっかけとなって環境部会が発足したが、新旧住民が混在した地域の中で、これまでに多くの実績を残し、現在も活動が継続されている。住民が主体となったきめ細かいガイドラインづくりなど、継続的な勉強会に基づくルールづくりが行われている。

■村上八郎（大和駅東側再開発等促進協議会 相談役）

経済、社会状況の変化などにより、今日の再開発事業の推進には困難を極めるケースが多く見受けられる。そのような中、会を設立した当初から会長として、地権者をまとめながら継続的な活動を続け、「大和の顔」づくりに尽力されてきた。

【事例部門】



■「常泉寺」(福田)

敷地内には四季折々に咲く草花を配置し、なおかつ手入れが行き届いており、質の高い緑地景観を創出している。また、花の寺として、地域に親しまれている様子がうかがえ、一寺院の領域を超えて、緑豊かな地域づくりに貢献している。



■「引地川公園ふれあい広場」(上草柳)

コンクリート護岸を撤去し、見事に自然の川を復元させた。自然を生かした公園、ふるさどを感じさせる川、周辺の緑がうまく調和し、良好な景観を形成している。また、自然にやさしい環境づくりにも取り組み、自然の力を利用した整備手法は、今後の整備の参考事例ともなっている。



■「ラ・パレット」(中央林間)

建物を低層におさえ、駐車場のスペースを広くとり、外構をオープンにするなど、空間にゆとりを持たせている。石造り風の落ち着いた建物のデザインは、センスが良く、また、植栽も効果的に配置しており緑豊かな住宅地のイメージに合っている。



■「大和市グリーンアップセンター ・大和市コミュニティセンター草柳会館」(上草柳)

建物は、水平ラインを強調し、安定感を創出している。また、風格のあるデザインは、とても好感が持てる。周辺の緑との調和を図りながらも、ランドマークとしての主張も感じとれ、緑の中の公共施設にふさわしい事例となっている。



■「PROSS (プロス)」(大和東)

駅前でありながら、色彩や形態での主張をおさえ、派手さのないシンプルなデザインにまとめられている。また、プロムナードや駅前広場とのつながりや調和を意識し、全体としてのまとまりが感じられる。



■「大和市自然観察センター しらかしのいえ」(上草柳)

施設規模が大きいものの、木質系材料を効果的に使用し、周囲の自然環境との調和が図られている。また、多くの人に親しまれる施設とするために、建設プロセスでの市民参加を導入するなど、施設の成り立ちも含め評価できる。

第5回（平成9年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「中央林間 3-24-3~10、 3-28-20~26 の街並み」 （中央林間）

通りの両側は、緑豊かで個性に富んだ低層の住宅地で、林間都市のイメージを残す優れた街並みが形成されている。建物は、かつての「将校ハウス」として、シンプルではあるが、好感の持てるたたずまいとなっている。



■つきみ野 7-18-9~28 の街並み（つきみ野）

個性ある家々が連続しているが、緑豊かな庭先が街並み全体を調和させている。また、通りが程良いカーブを描き、建物の配置等にも工夫が見られるため、心地よいリズム感のある街並みを形成している。これらの街並みは、つきみ野地区の住宅地のイメージをリードするものとなっている。



■「引地川公園 親水広場」 （上草柳）

「水と緑と花」をテーマに、池や小川や滝によって、子供たちが水や水辺の動植物と親しむことができる広場になっている。自然を前面に掲げ、多くの人が楽しむことができる新たな水辺の憩いのスペースを創出している。



■「引地川沿いの散歩道（山王 橋から新道下大橋）」（福田）

引地川を中心に、斜面緑地や川沿いの木々、そして街並みが一体となって、魅力的な河川景観を形成している。河川沿いの花壇やコンクリート護岸へのツタ等による緑化なども空間に彩りを添え、市民が楽しめる散策路となっている。川沿いの風景も含めて、地域の景観づくりに貢献している。



■「東急ストア中央林間店 店舗北側空間」（中央林間）

店舗北側のセットバック空間を公開空地とし、歩道と一体となった整備により、緑豊かで良好な歩行者空間を創出している。店舗の一階部分をガラス窓（レストラン）にすることにより、室内との連続性も適度に確保され、また、夜間景観の美しさも楽しめる場となっている。歩道部分は維持管理の状況も良く、快適な歩行者空間が創出されている。

<まちのアクセサリ賞>



■「緑と花、安らぎの空間」 安武秀次郎（中央林間）

広い庭の周囲を高い塀などで囲わず、道行く人からも楽しめる開放的な空間を創出している。また、庭の手入れも行き届き、切り妻屋根の家もシンボリックで魅力的な景観となっている。個人宅でありながら、街並みにうるおいを与え、落ち着いた空間を創出している。



■「三角出窓のディスプレイ」 栗林浩郎（つきみ野）

通りに向けて設置された三角形の出窓に、四季折々のディスプレイをし、道行く人々を楽しませている。また、夜は照明が当てられるなど、まちかどの小さなギャラリーのような細やかな配慮が伺える。個人宅でありながら、街並みに個性ある表情を与えている。



■「西洋風の素敵なお宅」 家氏俊二郎（渋谷）

比較的喧騒のイメージが強い場所にあつて、それを忘れさせてくれるような、緑豊かで魅力的な空間となっている。手入れの行き届いたガーデニングは周囲からも楽しめ、たくさんの色とりどりの草花と、幾つかの人形の置物が住む人の夢を感じさせてくれる。明るい外壁の色も工夫されている。

第6回（平成10年度）

【活動部門】



■中央林間まちづくり委員会

平成元年の設立以来、中央林間地域を活動エリアとして、自主的かつ積極的に街づくり活動に取り組んできた。まちの将来像や活動指針を示した「まちづくり憲章」の作成をはじめ、街づくりに関する勉強会やワークショップ等を重ねながら、多くの地域住民の参加を得て、様々な活動を継続的に実践してきた。



■どんぐり公園を育てる会

ワークショップ形式により市民参加の公園づくりが実践された。全体としてやや行政指導型で進められたようだが、公園のデザインから維持管理まで、市民による活発な議論や検討が行われてきた。

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「大和学園聖セシリア」(林間)

南林間の静かな住宅地の中に、幼稚園から短大までの一連の学校施設が整備され、長い時間をかけて緑豊かな教育環境を育ててきた。松の高木と植え込みに囲まれた施設は、当初の林間都市開発の姿を思い起こさせ、そのイメージを地域に伝えている。



■「鶴林寺・長谷川邸」(下鶴間)

旧矢倉沢往還沿いにたたずむ寺院であり、隣接する長谷川邸とあわせ大和市に残る数少ない歴史的空間を形成している。特に坂道に面した長谷川邸の倉、黒板塀と門、及び鶴林寺の斜面緑化は、魅力的な歴史を感じさせる景観となっている。



■「高座みどり幼稚園」(南林間)

南林間駅西口から伸びた、放射線状のヴィスタ（道路の延長線）上に赤い屋根の園舎が配置され、シンボリックな景観づくりが林間都市のイメージを高めている。

<まちのアクセサリー賞>



■「環境共生型の商業ビル」 アーキテクツ（中央林間）

コンクリート打放しの外壁と樹木が調和し、林間イメージにふさわしいおしゃれで文化的な香りのする建築デザインとなっている。また、施設内では有志による勉強会が開催されるなど、交流の場としても地域に親しまれている。



■「クリスマスイルミネーション」 保田邸（代官）

クリスマスの時期に、樹木や建物をライトアップし、平凡な住宅地のまちかどに効果的なアクセントを与えている。また、庭の手入れも行き届き、四季を通じて草花が溢れており、地域の景観向上にも寄与している。



■「古き南林間の面影を残したお宅」大木邸（南林間）

広い邸宅ではあるが、周囲に開放的であり、道行く人は手入れのよく行き届いた様々な種類の緑の庭をうかがうことができる。しゃれた洋風の家屋とともに南林間を代表する住宅景観となっている。

第7回（平成11年度）

【活動部門（団体表彰）】



■引地川かわくだけり実行委員会

平成2年より、ゴミ拾いや川歩き、遊びを通じて川と水の間を関係を考えるイベントとして、引地川の川下りが実践された。単なるイベントに終わることなく、活動は報告書としてまとめられ、長年にわたり、提言を続けている。

■千本桜街づくり委員会

平成10年に「千本桜街づくり準備委員会」として結成され、まちの将来像として「千本桜地区街づくり構想」が策定された。その後「千本桜街づくり委員会」として発足し、構想実現に向けた街のルールづくりを目指し活動してきた。その熱心で活発な取り組みは、他の地区の街づくりの参考となるばかりか、既成市街地における地区計画への取り組みの先駆的事例となっている。



【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「トつきみ野の庭園及び公開空地」（下鶴間）

南側に高木の多い庭園や提供公園を配置し、地域にも開放された緑の多い環境を形成している。管理の行き届いた庭園は、憩いの場として魅力溢れる空間であり、また大規模マンションの圧迫感を軽減する事例となっている。



■「大和市消防北分署」（下鶴間）

消防署建築にありがちな、無表情で威圧感の強いイメージを一掃し、シャッターに火消しの纏（まとい）や半纏（はんてん）のイラストを描くなど、形や色彩の工夫により、市民に身近な公共建築として親しまれている。



■「矢倉沢往還」長谷川邸付近～小倉邸付近（下鶴間）

旧矢倉沢往還沿いは、市内で数少ない歴史的な風格ある街並みを形成している。宅地内の緑が豊かなゆとりある佇まいで、大和らしさを伝える街並みとなっている。

<まちのアクセサリ賞>



■「矢倉沢往還沿いのゆとりある門構え」中村邸（下鶴間）

門前に迎える松を植樹し風格ある門構えの景観を構成している。門を大きくセットバックさせ、歩道側にゆとりある空間を創出した点は、旧矢倉沢往還の狭い歩道空間に対する今後の街づくりのお手本となっている。



■「街並みと連続性ある石垣塀と門」山口邸（深見台）

本格的な瓦屋根を冠した石垣塀が、街並みに風格を与えている。門の格子戸から邸宅の緑豊かで手入れの行き届いた庭園が垣間見え、街並みと程良い連続性も保たれている。



■「なかよしの像」『さんぼ』安藤泉作（つきみ野）

交通量の多い喧騒な幹線道路沿いだいが、ゲート性の高い形態と微笑ましい子供達の像は、桜の散歩道の入口に相応しい心安らぐ空間を創出しており、多くの市民に愛されてきた小広場となっている。

第8回（平成12年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「日本ア化[®]-EM(株)大和事業所」(下鶴間)

広大な敷地に、きめ細かく配置された緑とシンプルな建物、周囲に配置された緑地が良好な景観を形成している。



■「小田急」トア[®]ニュー中央林間」(中央林間)

統一されたデザイン、塀のない街並み、曲線を取り入れた区画街路により開放感ある空間を創り出している。



■「東京電力(株)大和営業所」(深見西)

建物前面の空地を開放的な植栽とシンボルツリーによって緑の街かどとして演出し、魅力ある空間を形成している。



■「引地川沿いのオープンな街並み」(福田)

フェンスをなくし、枕木状の材料を使用した門回り、手入れされた草花が街並みに連続性や統一感を生み出している。

<まちのアクセサリ賞>



■「快適なスペース」南林間中央公園(南林間)

道路と連続する花壇、築山や松ぼっくり型の時計、遊具の形態や配置が工夫され、街かどを飾っている。



■「素敵なアプローチ」吉川邸、佐々木邸(福田)

隣接する住宅が一体となって手作り感覚のガーデニングにより街かどを演出し、道行く人を楽しませている。



■「西鶴間のモダンな空間」(西鶴間)

シンプルな建物が、モダンなイメージを創出し、タペストリー(壁掛け)や、ライトアップによって街かどを演出している。



■「都会のオアシス」大和中央[®]-林-ムス(中央)

建物前面を緑豊かな曲線状の歩道で整備し、都心部にあって人が憩える魅力ある空間となっている。

第9回（平成13年度）

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■「コンフォール鶴間ライラック通りとリラの丘公園」（鶴間）

緑豊かな植栽が施され、快適な住環境が形成されている。特にワークショップ形式でつくられた「リラの丘公園」は防災機能を備えた公園として地域に親しまれている。

<まちのアクセサリ賞>



■「角と丸の調和」金邸（つきみ野）

開放的な玄関先に、円形を取り入れた親しみの感じられる門がデザインされている。木の手すりやレンガの外構は、手作り感覚で温かみのある景観を生み出している。



■「通りのシンボル『時計台』と森の宿『ふくろう』」南林間一条ハム（南林間）

建物のペントハウスに設けられた「時計台」は周辺地域のシンボルとなっている。また、建物の階段わきスペースに設置された「ふくろうの彫刻」も、その芸術性とあいまって、空間の魅力を高めている。



■「ぜいたくな空間のある平屋」 綏山邸（大和東）

緑のやや少ない地域の中で、石塀を後退した空間の外向きに植栽を施し、街並みに潤いを与えている。どっしりと地の足を着けたような和風の趣ある住宅と一体となって、地域の魅力を高めている。



■『楽しい幼稚園』 西山学園 大和幼稚園（大和東）

駅からの商店街の並びにあって、カラフルなさく的设计や、開放的な園庭に置かれた様々な遊具のデザインが、周辺の街並みに楽しさを与えている。

第10回（平成14年度）

【事例部門】

＜まちのグッドデザイン賞＞



■セ・バルレ中央林間(中央林間)

鶴間の森に向かって通り抜けできる通路や既存の樹木を多く残した外部空間の造り、建物の重圧感を軽減させるデザイン上の工夫など、これからの大規模マンション整備のあり方への一つの手本を示している。



■まごころ地域福祉センター（柳橋）

周辺との調和に配慮した建物の色彩や特徴ある外観など、公共施設として、人にやさしい、また地域のランドマークとしても見映えの良いデザインの建物となっている。



■南林間むつみ公園（南林間）

ワークショップにより、ウォーキングコースや足つぽを押す石敷きなど、健康づくりを視野に入れた仕掛けを持ち、従来型の遊具を持つお決まりの公園とは一線を画したユニークな施設となっている。

＜まちのアクセサリ賞＞



■「ガラスと松のファード」 聖セシリア女子短期大学1号館(林間)

ガラスを多用した透明感のあるスマートな現代建築には清潔感が漂い、一方門前に生えていた既存の松の木を残し、現代建築と古風な松との不思議なマッチングは、生垣とともに新しい景観の魅力を創り出している。



■「門前入口の庭園風道路」 関水邸（福田）

単なるアプローチ道路ではなく、ゆったりと曲線を描く道沿いに庭石と植物とを巧みに組み合わせて築いた知恵と工夫、きめ細やかな手入れなど、道行く人々をふと和ませる感性とこだわりが感じられる。



■「枕木の暖かさ」 渡辺邸（つきみ野）

木の持ち味を發揮した素朴な材質感が好ましく、自然石の床面、明るい色彩の住宅とのコントラストが暖かみを伝え、個性と調和のバランスが冴えたアクセサリとなっている。

第 11 回（平成 16 年度）

【活動部門】



■つるまの森保全協力会

10年の長きにわたり広葉樹の植樹など、つるまの森の育成の保安全管理の活動に取り組む。環境学習として子どもたちと世代を超えた交流や地域の人たちとの連携した実践は、街づくり活動の模範となっている。



■中央林間小学校ワークショップ

学校教育プログラムの一環として、地域の人々と積極的に交流をしながら、30年後のまちの姿をまとめあげた。子どもたちからの貴重な街づくりの提案となっている。

【事例部門】

<まちのグッドデザイン賞>



■横浜うかい亭（つきみ野）

和風を基調とした瓦屋根の建物や重厚な門扉などの質の高いデザインは、周辺住宅地とも調和し、街並みに風格を与えている。



■グリーンアベニュー（西鶴間）

元々自生していた樹木を巧みに生かし、地域に開放された遊歩道や前庭空間によって、ゆとりある集合住宅となっている。

<まちのアクセサリ賞>



■「モザイクタイルのベンチとシンボルツリー」 桐がプレミアムアパレルショップ （上草柳）

モザイクタイルを施したモニュメント風なベンチと、シンボルツリーで演出されたエントランスが、まちに印象的で楽しい空間を創り出している。



■「趣ある草花画廊」 前田邸（西鶴間）

通り沿いいっぱいに花々や野草を配し、季節の移ろいを感じさせる演出と限られた空間を活かすための柵や間仕切りの工夫が道行く人々を楽しませている。



■「境界領域の見事な演出」 馬場邸（つきみ野）

公道との境界にある敷石や樹木、野草の連続が、建物の外壁の色彩や曲線を描く生垣とあいまって、バランスの良い見事な空間を創り出している。

第12回（平成17年度）

【活動部門】



■大和駅前、未来きれい大作戦〈やまとプロムナード〉 ～中学生ボランティアを中心とするまち緑化・美化活動～

プロムナードは様々なイベントにも活用される公共のオープンスペースである。この公共空間で、次代のまちを担う中学生ボランティアの手により魅力的なものに育てていく、潤いと人の暖かさを感じさせる街づくり活動をしている。この活動は、“地域の底力事業”の一環として、自治会、家庭地域家庭活性化会議など様々な団体と連携しながら行われ、底力事業の期間で終わることなく、継続的な活動として街づくりへと繋がっていくことが期待される。



■「新道下ふれあい緑地」(引地川河川敷) 開設・維持保全活動

せせらぎ、樹木の緑、土の地面を感じることでできる引地川の河川敷に関わる地域活動をしている。地域住民による河川管理への協力活動を経て、地域の公園的広場として利用できるよう、管理者である県とルールを結んだ。この緑地に関わるイベント等を通じて、緑豊かな住宅地として地区の良好な住環境を形成していく、継続的な街づくり活動へと発展していくことが期待される。

【事例部門】



■アムールホール・大長産業株式会社 (深見西)

事業所に音楽ホールが併設された建物で、セットバックした空間は、実のなる木の植栽や音符の壁面レリーフなどにより、ホールへのアプローチを演出し、ゆとりの空間を創出している。



■山下邸 階段状アプローチ (福田)

高い擁壁が続く通りにあり、広く空間をとった階段状アプローチをつくっている。石積みと植栽や鉢植えとの調和も良く、つくり手の繊細な心遣いを感じ取ることができる空間である。



■小泉歯科医院 駐車場からの アプローチ（福田）

高低差のある敷地を上手く利用して、高台側駐車場からのアプローチは、白樺やパーゴラ、ゲート、ひかえめな看板などで、手づくりの暖かさの感じられる空間をつくっている。



■ベルベ（大和）駅前店（大和東）

プロムナード側に新たに設け整えられた石積みの入口は、魅力的な空間となっている。反対側の商店街側にも入口があり、セットバックにより創出されたゆとり空間を、オープンカフェ風に活用し、まちの憩える空間として演出している。



■カフェテリアみなみ風 〈大和スポーツセンター〉 (上草柳)

スポーツ利用者のための空間として閉鎖的だった競技場を、より広く市民に開放している。全面ガラス張りの壁面は、オープンで軽快な印象を与え、内部からは迫力あるトラックの眺めを楽しむことができる。



■三機自然環境園（ピオトープ） 〈三機工業株式会社大和事業所〉 (下鶴間)

工業系の街並みの中に、大和の自然環境を身近に感じ、体験できる『自然環境園』がつくられた。事業所の私有地を散策できるように市民に開放した取組みが高く評価される。

第13回（平成18年度）

【事例部門】



■柳橋2丁目19,20番街区の街並み（柳橋）

統一感のある建物のデザインや色彩などにより落ち着いた街並みを形成している。低く抑えられた生垣や庭なども手入れが行き届いており、街並みの調和が保たれている。また建築後10年が経ち、再度住民合意により建築協定を締結するなど、街並みを住民自ら保全する努力も評価できる。



■T邸「矢倉沢往還の緑豊かな庭」（下鶴間）

歴史ある街並みの一角に緑豊かで開放的な庭をつくり出している。緑が多い矢倉沢往還の中でも、よく手入れされたツゲの高生垣や日本の四季の移ろいを感じさせる植物を多く植えるなど、街に潤いを与える一角となっている。また漆喰の蔵など歴史を感じさせ、沿道景観の優れたアクセントになっている。今後も矢倉沢往還の歴史ある街並みづくりへの貢献を期待する。



■北島生花店（つきみ野）

住宅街の角地に面してゆとりのある土地利用がなされている。セットバックしたスペースに花を並べ、道行く人を楽しませている。また、建物も明るく軽快に仕上げられている。周辺の住宅地の街並みに上手く溶け込んだ店舗としての好事例といえる。



■緒里都&暮らしのギャラリー（福田）

門を一步入ると長年丹精込めて造られた素晴らしい庭が広がっている。特に生垣や四季折々の植物の選び方などにセンスの良さが感じられる。できれば、もう少し道行く人への内部の優れた部分のアピールがあってもよいと感じる。また、ギャラリーを開放し、市民の交流の場を創り出している点も評価できる。



■金子邸「矢倉沢往還の風格ある門構え」（下鶴間）

重厚な瓦葺の門と石垣と板塀を組み合わせ、めずらしい瓦のせ堀の屋敷である。山石の石垣には石工の秀逸な技術がうかがえる。また、長い塀まわりの庭の緑が通りに風格を与えている。特に高生垣は非常に価値あるものだ。歴史を現代に伝える貴重な屋敷を代々引き継ぎ、今後も矢倉往還の歴史的街並みづくりへの貢献に期待する。



■大和市障害者自立支援センター（鶴間）

ローコストながら清涼感と明るさがあり、街との交流に配慮した開放的な設計が評価できる。U字溝などを活用したベンチなど道行く人も座りたくなるような楽しい工夫が見られる。今後、木々の成長とともに、人々の憩いの場として活用されることを期待する。

第14回（平成19年度）

【活動部門】



■内山の街づくりを考える会（下鶴間）

自分たちの住む街をよくしていきたいという思いをきっかけに活動が進められている。内山地区の街づくりの課題を行政への要請だけに終わらせることなく、街の皆さんの自主的で継続的な活動となっている点が評価できる。まだ、プランやルールなど具体的な街づくりの成果が得られていないが、アンケートや頻繁な勉強会の開催などにより、住民の意向を反映し、内山の特徴を活かした街づくりが実現することを期待する。

【事例部門】



■森永邸「枝垂れ桜と緑豊かな庭」（渋谷）

枝垂れ桜が敷地角にシンボリックに配され、道を通る人にも季節感を感じさせる緑豊かな庭がつくられている。さらに隣接する公園の樹木、林と合わせて、地域にとって良好な環境をつくり出している。



■針邸「壁面緑化とプランターによる外周部の演出」（福田）

無機質な表情となりやすい壁面・フェンスを立体的に活用し、壁面緑化やプランターの設置など豊富な草花で、道行く人の目を楽しませている。



■川崎邸「開放的な前庭と立体的な花壇」（中央林間）

シンボリックな松をくぐった前庭が通りと一体になり、門扉も開放して庭にもつながる、楽しい街角をつくり出している。



■富塚邸「古き中央林間の面影を残す庭」（中央林間）

低い生垣越しに、とても広い庭全体が見渡せる。豊富な庭木の配置も的確で樹木園の趣を呈している。林間都市開発による分譲当時の佇まいを残す貴重な空間といえる。道行く人にも心安らぐ豊かな空間だが、さらに四季折々に花を付ける木々などによって、すばらしい街並みをつくり出すだろう。



■プライドシーズン中央林間（下鶴間）

36戸の街区の中央にゆるやかに屈曲する道を配し、街並みに変化を生み出す等、空間形成の工夫が見られる。また、屋根や外壁の材質、色彩、開放的な外構などにも統一感が表れている。



■市営鶴間台住宅（鶴間）

壁面緑化、太陽光発電等の環境負荷軽減への取組み、緑地・建物の配置等は集合住宅の模範的な計画と思われる。また、既存の大木を残して、居住者にも街の人にもシンボリックな空間をつくっている点も評価できる。これから、住民の手により緑豊かな住宅環境に育っていくことを期待する。

【事例部門】



■中央林間5丁目界限（中央林間）

周辺にあるそれぞれのお店では、客に親んでもらいながら個性をさりげなくアピールしている。一連の街並み、商店街として温かい雰囲気をつくり出している。



■グリーンやまとプロジェクト実行委員会（中央林間）

まちをキレイに保つという意図が看板全体に表れ、バス停風の都会的なデザインも周辺の景観にマッチしている。サインそのものが美観を損ねるものにならぬよう、さりげないデザインになっている点はよく考えられている。周辺の建物と調和がよくとれていて、わかりやすい看板としての目的を果たしている。



■株式会社ガスター（深見台）

ロゴや建物の色彩がシンプルで、スッキリした景観が周囲に溶け込んでいる。企業としてのサインのあり方が表現されている一例である。



■大和山王幼稚園（下鶴間）

子供たちの記憶に残るような個性的なサインで、やわらかで楽しい園の雰囲気がよく出ている。敷地のコーナーにマスコットを配置していることで、車の運転者に注意を促す役目も果たしてくれている。



■とうふ工房豆畑（西鶴間）

店先に自然素材を用いた広場を設け、幹線道路沿いの街並み全体に落ち着きを与えている。清潔感も感じられ、取り扱っている商品（豆腐）の品質イメージがよく表現されている。



■笹倉鉄平版画ミュージアム（上和田）

住宅地にある小さなサインで、控えめながらも一度見たら忘れられないデザインの良さがある。建物や植栽とのバランスもよく、全体としてよく考えられている。

第16回（平成23年度） テーマ「省エネ・安全性」

【事例部門】



■FLAT HOUSE cafe（中央林間）

旧米軍将校の建物をリフォームして使っており、省エネという点で大変優れている。その控え目な装いには安心にも似た温かい雰囲気を感じられ、「街の公民館」としてのにぎわいもうかがえる。大和の歴史を伝える財産の一つだろう。



■市川邸（下鶴間）

高低差をいかして作られた庭が、歩いていて楽しい景観である。周辺には同じように緑豊かな落ち着いた住宅が多く残っており、大事にしたい街並みである。



■山谷北土地区画整理事業（下鶴間）

電線の地中化など、安全性・景観への配慮が感じられ、計画的な街づくりの良い事例として評価する。今後は、周辺景観との調和などに期待したい。



■イオン大和ショッピングセンター（渋谷）

壁面緑化や太陽光パネルが設置されていて、周辺の環境や省エネに配慮された建物である。これからの時代を感じさせる景観である。

【活動部門】



■南林間西南自治会
クリーンキャンペーン（南林間）

西南自治会は清掃のみならず、ゴミの放置などについても部会で対応するなど積極的に活動されている自治会だと伺っている。今回はクリーンキャンペーンに合わせ、地区内への周知として子供たちを巻き込んだ活動がとても素晴らしかった。地区内は全体的に清潔感があり、とても心地よい空間が広がっている。これは、等自治会が積極的に活動されている成果だと思う。

【事例部門】

■大和駅東側プロムナードガーデニングプロジェクト（大和東）



大和のメインストリートで彩られている草花の演出が楽しく表現されている。それぞれの区画に工夫があり、競い合うことで一定の水準が維持されている。市民の協力により、味気なかった通りがよみがえっている。

■つるま自然の森（下鶴間）



大和市の市街化以前の林地環境(里山)が残されている。民有地ではあるが、そこを開放しているところがとてもいい。内山地区を象徴する農村風景の道を通じて、開放感あふれる空間になっている。

■上和田野鳥の森 ビオトープ（上和田）



大和市の市街化以前の林地・谷戸の環境が残されている。元の自然景観を上手く活用させ、樹木の枝の張り方などによる空間の広がり方が魅力的な事例である。

第18回（平成25年度）

テーマ「人のつながりが見える風景」

【活動部門】

■代官四丁目公園（代官）



個人のちょっとした力で思いがけない良い風景を作り出しており、育てられたひまわりや菊が無機質な擁壁を上手くカバーしている。個人での活動だが、子どもたちと一緒に花を植えるなど、地域とつながって活動している点が素晴らしい。子どもたちを巻き込みながら、自発的に楽しんでいる様子が見える。

■中央林間小学校通学専用通路 なかよし小道（下鶴間）



地域の多くの方々が協力し合い、子どもたちの安全のために作った道という点が素晴らしい。土地を提供した地権者の熱意に心を打たれた。人のつながりや住民参加の街づくりを感じられ、人の活動は高く評価できる。今後維持管理の中で植栽や安全性の確保に力を入れて活動を続けて欲しい。

■つきみ野まちづくり委員会の活動（つきみ野）



街の景観を維持するためには植栽の管理や沿道の清掃は必要不可欠であり、この活動が街に彩りを与える大切な要素となっている。風景として地域の個性や継続的な活動をうかがうことができ、街づくりを地域全体で進めていることが高く評価できる。委員会メンバーの次代の担い手を増やしていく工夫として、「チューリップ作戦」を上手く活用して欲しい。

【事例部門】

■デイサービス ハッピー鶴間 （西鶴間）



小さな福祉施設でも街への小さな貢献ができており、これからの地域社会にますます増えていくであろう「福祉のある風景」の身の丈にあったモデルになりうる。すっきりとした外観が落ち着いた街並みにつながっており、アットホームな雰囲気が出すなど、今後の街づくりの発展性を期待させる。

■石窯工房ベルベ中央林間店 （中央林間）



民間の店舗でも景観的に素晴らしい街角を作り出していることが評価できる。建物のデザインに個性を感じられ、街の上手いアクセントとなっているなど、大変魅力的な店舗となっている。オープンテラスを設置し、上手く街角を演出できているので、植栽を増やし華やかさを出すなどの工夫に期待したい。

■千本桜地区（福田）



日常の手入れと地域の人たちのこれまでの積み重ねを感じることができる。地域ぐるみの活動から、お店の地域ブランドづくりなど幅広い活動を行っている点がおもしろい。街並み、空間として1年中良好な景観に寄与し、活動の継続性も高く、人のつながりが感じられる風景となっている。

第19回（平成27年度）

第19回目となる平成27年度は、日本建築学会関東支部が主催する提案競技が大和市を対象に開催されることを受け、この提案競技のうち、写真コンクールの部と絵画コンクールの部を大和市街づくり賞の時限的表彰部門として実施、表彰を行いました。

【写真コンクールの部】 課題：「駅・まち・ひと」 / 対象者：条件なし

＜最優秀賞＞「駅と共に輝く市民パワー」



■氏名：佐藤 正一 氏

＜優秀賞＞「チューリップ作戦成功！」



■氏名：小杉 皓男 氏

＜ヤマトン賞＞「高座渋谷駅西口広場」



■氏名：新海 正広 氏

＜ヤマトン賞＞「台風が去った後の大和駅」



■氏名：多田 朱里 氏

＜ヤマトン賞＞「お兄ちゃんどうだっけー？」



■氏名：友野 春夫 氏

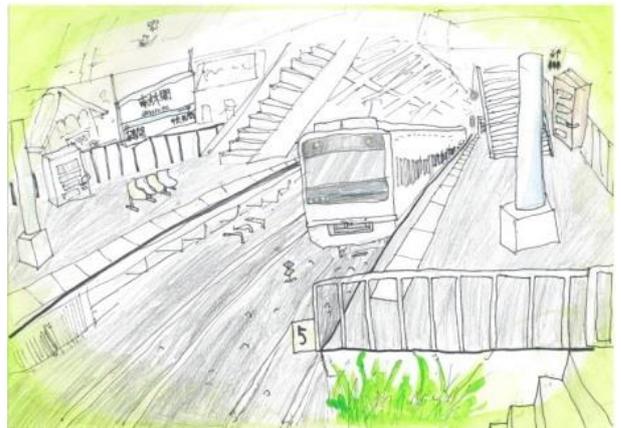
【絵画コンクールの部】 課題：「駅の近くに」 / 対象者：市内在住、在学の小学生

＜低学年の部 最優秀賞＞



■氏名：殿村 芽生 さん

＜高学年の部 最優秀賞＞



■氏名：殿村 隼矢 さん

＜低学年の部 優秀賞＞



■氏名：大木 優華 さん

＜高学年の部 優秀賞＞



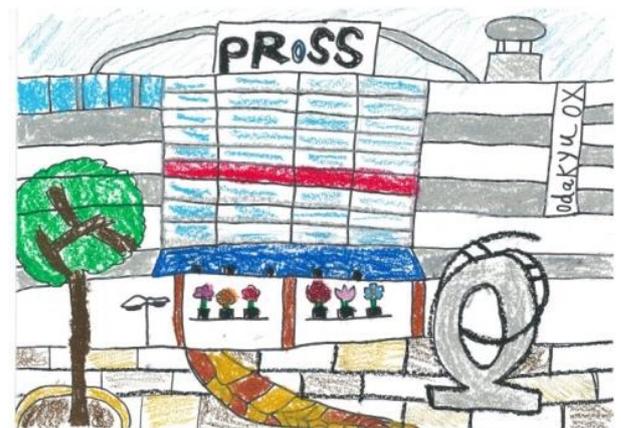
■氏名：広瀬 小羽 さん

＜低学年の部 優秀賞＞



■氏名：橋場 純平 さん

＜高学年の部 優秀賞＞

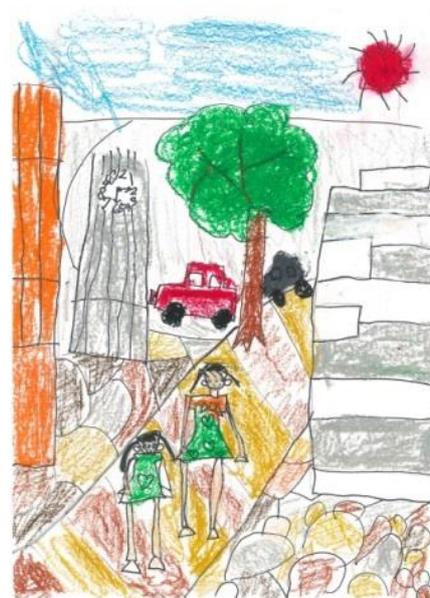


■氏名：山本 紗慧 さん

<低学年の部 ヤマトン賞>



■氏名：小箱 瑛 さん



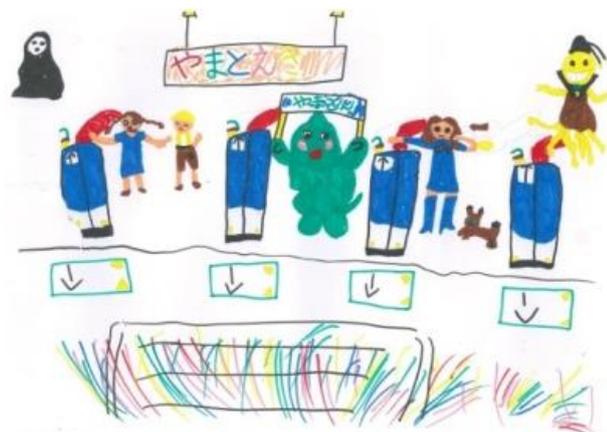
■氏名：山本 咲羽 さん



■氏名：ヲッティ くりり さん



■氏名：山下 寛翔 さん



■氏名：下田 歩実 さん



■氏名：丹野 灯 さん

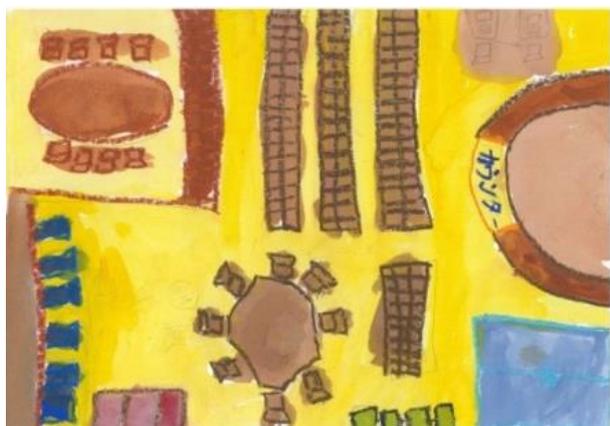
〈高学年の部 ヤマトン賞〉



■氏名：小山田 真央 さん



■氏名：宮崎 理暖 さん



■氏名：関水 優花 さん



■氏名：伊藤 美玖 さん



■氏名：保田 翔汰 さん



■氏名：犬東 航志郎 さん



■氏名：大塚 瞬翔 さん

第 20 回（平成 29 年度）

【事例部門】



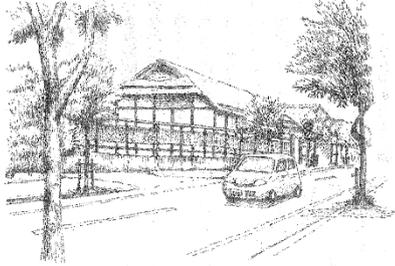
■福田 山下邸（福田）

自宅の入口を動きのあるデコレーションで演出している。ポンプ 2 台で水車とダムを造り、水の力を利用して動く仕組みになっている。デコレーションの一角ではメダカの飼育も行われている。通りがかりの人々の目を引く楽しい風景を創り出している。インパクトのある面白い空間を創り出している。手の込んだ仕掛けから、道行く人を楽しませてくれる。地域の人々のコミュニケーションを生むきっかけとなる、楽しいまちづくりの事例である。

【活動部門】

■「つきみ野十景」のスケッチ画単彩（つきみ野）

自治会のまちづくり委員会が発行する「まちづくりニュース」のコラム「つきみ野十景」は、つきみ野の日々の街の 1 カットを描いた線画作品である。街の魅力を再発見・再認識させる作品。地道な活動として評価できる。また、地域史や地域生活誌の資料としても重要であり、街の魅力を伝える有効な手法である。



イラスト・花方幸丸（つきみ野在住）

つきみ野十景・其の 3
つる舞の里歴史資料館あたり
つきみ野七丁目、つきみ野鶴舞通りに面している「つる舞の里歴史資料館」の開館は 1999 年 8 月。既に 18 年を経ています。すっかりまわりの景観に治まり、今や鎮座している感じをも醸し出しているように見えます。外観は幕末から明治初期の農家をモチーフにし、内部は農家の庭、納屋、土蔵というイメージで設計とか。入館すると、どこかほっとする空間があります。さて今季、この「資料館」を包むようにエッジ（マメ科）の濃い緑が鶴舞通りの両側に約 200 本列を成しています。（小形）



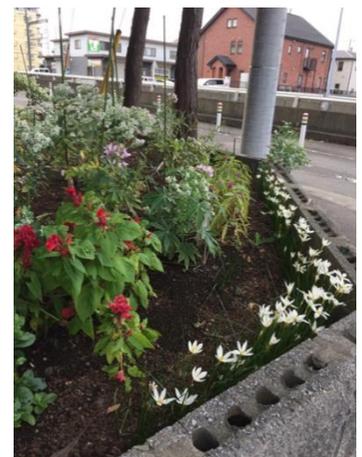
■もみの木デイサービス・もみの木放課後等デイサービス（上草柳）

印象的な外観が目を引く新しい建物であり、1 階部分ではデイサービス、2 階部分では放課後等デイサービスになっている。また今後は、それぞれのサービスの交流も予定されている。街並みの中のインパクトある外観に加え、様々な世代の交流が活発に行われることが期待できる。建物外観もユニークで、特殊な土地形状を上手く利用している。利用者の交流発展やこのような取り組みが市内に増加することに期待する。



■渋谷二丁目保存樹林への植栽活動（渋谷）

大和市指定の保存樹林敷地内において、街に彩りを加えたいと地主の承認を得て積極的に植栽等を行っている。豊かな景観づくりに一役を果たし防犯性の向上にも貢献している。地主の承認を得てボランティアで活動をする中で、「見せる」緑の彩りある豊かな景観が生まれている。市内に点在する保存樹林のあり方について、街づくりの視点からの新たな可能性を示すものである。



■国道467号沿い道守サポーターズ花壇（上和田）



工夫、努力、協力による花壇のお世話を通じたつながりを感じる。堅苦しくない運営をされ、活動者を増やしていこうという姿勢や努力が大変良い。それぞれの人たちの役割は緩やかだが、LINEなどを利用し、しっかりとつながっている。花壇のお世話をする人、花壇を見る人、地域みんなの居場所になっている。今後は花壇だけでなく、ベンチなど集まって憩える場づくりにも期待したい。

■子育てほっとサロン「たんぽぽ」（南林間）

子育て中の親子の出会い、交流の場になっている。資格を持つ人やボランティアが支えになり、誰かに相談できる場所があることは、子どもを育てている方には重要である。幼稚園と隣接する教会の敷地内にあり安心できる環境で、幅広いつながりの場として、孤立を防ぐために必要な場所のひとつである。



■さがみ生活クラブ生活協同組合南林間デポー（南林間）



物販にとどまらない多様な活動を実施している。イベントを通じて地域とのつながりが意識され、組合員を中心とした居場所からの広がりをみせている。SDGsやフードバンクなど、現代の課題に向き合っており、イベントや助け合い、環境対策などを通じた多彩な人のつながりを感じる。助け合いやサステナブルな取り組みを今後も継続してほしい。

■THE HUMMING SPOON（林間）

店内のバリアフリー化やキッズスペースの設置により、子ども連れから高齢者まで誰もが利用できるよう工夫されている。販売コーナー、絵本スポットにカフェの多彩さが感じられ、多様なつながりを創造している。ちょっとしたふれあいの場として、地域の居場所のひとつになっており、人のつながりを感じる場所である。



■つきみ野駅の周辺（鶴舞通り）



意欲的なかたがたによる努力のようすが伝わってきます。住民の主体的な活動により、魅力的な空間が実現している点が素晴らしいです。地域のかたがたが街並みをしっかりと計画しており、楽しめる道です。

■泉の森（みどりが多く、豊かな自然と触れ合える場所）



市民の皆さんによく利用されており、自然植生が見られる空間です。周辺とは一変した環境を感じることができるのが魅力です。園路ではありますが、自然の森の中にある小径は時間の経過に風化しないと思われ、今後も保たれていければと思います。

■旧下鶴間宿から鶴間駅までの大山道（矢倉沢街道）

歴史的な存在としてPRしたい道。特に古道を歩くことを趣味としているかたには楽しめると思われます。歴史が感じられ、他の自然の美しさがポイントの道とは異なる魅力があります。こうした風景が相続などで面影がなくなることがないよう、この機に保存されればと思います。



■桜の散歩道（自然を感じられるコース）



緑、花、人工物と調和のとれた道です。水管橋のボリューム感、カッコよさを感じられました。季節の自然を楽しめ、シンボルとなるポイントがあります。独特の景観を再発見している点を評価したいと思います。



第22回大和市街づくり賞授賞式

～パネル展示も同時開催～



資料編

【受賞件数一覧】

回	受賞年度	受賞部門						合計	
		活動部門		事例部門					
				グッドデザイン賞		アクセサリー賞			
		応募数	受賞数	応募数	受賞数	応募数	受賞数	応募数	受賞数
1	平成5年度	2	2	3	0	—	—	5	2
2	平成6年度	3	2	10	4	—	—	13	6
3	平成7年度	4	1	9	3	—	—	13	4
4	平成8年度	4	3	7	6	—	—	11	9
5	平成9年度	0	0	12	5	7	3	19	8
6	平成10年度	4	2	6	3	4	3	14	8
7	平成11年度	2	2	9	3	6	3	17	8
8	平成12年度	2	0	14	4	5	4	21	8
9	平成13年度	0	0	3	1	11	4	14	5
10	平成14年度	0	0	5	3	8	3	13	6
11	平成16年度	4	2	7	2	5	3	16	7
12	平成17年度	2	2	14	6	—	—	16	8
13	平成18年度	0	0	13	6	—	—	13	6
14	平成19年度	1	1	9	6	—	—	10	7
15	平成21年度	屋外広告物部門（時限的部門設置）						68	9
16	平成23年度	0	0	24	4	—	—	24	4
17	平成24年度	1	1	22	3	—	—	23	4
18	平成25年度	9	3	9	3	—	—	18	6
19	平成27年度	写真コンクール部門・絵画コンクール部門（時限的部門設置）						101	24
20	平成29年度	11	3	10	1	—	—	21	4
21	令和4年度	わたしの居場所（時限的部門設置）						43	4
22	令和6年度	歩くのが楽しいマチミチ（時限的部門設置）						24	4
合 計		49	24	186	63	46	23	474	147

【事例別件数】

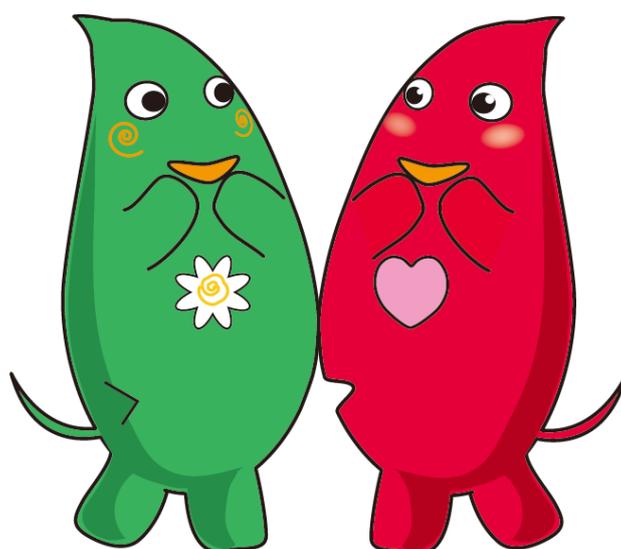
事例別	件数
建築物	32
個人宅（庭先などを含む）	22
公園	5
空間、街並み	26
広告物（時限的部門）	9
居場所（時限的部門）	4
マチマチ（時限的部門）	4

※活動部門で多地区にまたがる活動は集計せず。

※マチマチ（時限的部門）で多地区にまたがる場合は集計せず。

【地区別件数】

北部		中部		南部	
地区名	件数	地区名	件数	地区名	件数
つきみ野	12	上草柳	8	柳橋	2
中央林間	17	草柳	1	福田	11
下鶴間	16	深見西	2	上和田	3
南林間	8	大和東	5	代官	2
林間	3	中央	2	渋谷	5
西鶴間	5	大和南	1		
鶴間	3	深見台	2		
合計	64	合計	21	合計	23



大和市街づくり賞

大和市街づくり推進課街づくり推進係
〒242-8601 大和市下鶴間1-1-1
電話 046-260-5483
E-mail ma_suish@city.yamato.lg.jp